

東照宮御代

川村

高五拾俵三人扶持

藤原姓

家紋

三ツ星
輪違下リ藤

浄貞

根来山本坊教應院中老

天正十二年四月九日尾州小牧長
久手御陣の時御味方に参り忠
節を盡このとき

東照宮根来一山を頼之思召の旨
にて御書を下さる其趣ハ太閤秀
吉公と長久手において御合戦遊は
さるに依て秀吉公の味方西国より
攻登るへかれは大坂にて防へしとの
仰を蒙り御請をして根来山より
大坂に出陣し秀吉公の残置れし
人数と大阪城にて戦泉州岸和田
千石掘積善寺濱の城三ヶ所の
砦を以て西国勢を押へ防戦し
互に対陣せしうち長久手の扱ひ
整ひて三所の砦引拂へとの命
秀吉公より
あれとも

東照宮の御一左右を待奉るよし答

しかは秀吉公其意趣を以大和

大納言秀長羽柴中納言秀次を

副将として岸和田に赴き中納言

秀次は千石掘にむかひ長岡兵部

大輔藤孝子息与市郎忠興蒲

生忠三郎氏郷は積善寺にむかひ

中川藤兵衛高山右近は濱の城

堀左衛門尉秀政筒井順慶長谷

川藤五郎秀一は根来寺にむかひ

天正十三年三月廿二日彼の三所

をはしめ根来一山の徒没落せり

○同十四年八月廿二日濱松御在

城の時成瀬吉右衛門取次を以て拝

謁し御懇の御意にて魚類の

料理にて御盃を賜還俗命せ

られ廩米を賜高不知○成瀬隼人

正支配にて相州小田原の役に

供奉して武州岩附鉢形の番

を勤のち會津関ヶ原大坂両

度の御陣にも供奉し伏見の城番

をも勤て元和元年四月十一日伏見

の地にて死遺骸を江戸駒込長元

寺に葬

仙教

慶長十七年家督成瀬隼人正

支配にて伏見御城番○寛永三年

参府大奥進物取次番○

大猷院殿御上洛の供奉○寛文五年

十二月廿三日死同寺に葬

房教

三左衛門

寛文五年十二月十一日家督○同六

年大奥進物取次番○元禄十

年七月廿二日二丸御門添番五

拾俵三人扶持○同十二年十月御譜

代御吟味の時金を賜○享保五年

十二月老免小普請○同八年二月

四日死同寺葬

以下略